

# 愛知県立大学学生の児童見守り活動団体「じょいなす」が、 平成 30 年度春季善行表彰を受賞しました。

教育福祉学部教育発達学科学生が中心となって活動する学生団体「じょいなす」は、長久手市内の小学校の下校時に継続的に見守り活動を実施してきました。この活動をとおした児童との交流や健全育成、防犯への貢献により、平成 30 年度春季善行表彰（主催：一般社団法人日本善行会）を受賞しました。

<p>活動の経緯</p>	<p>本学主催の平成 27 年度学生自主企画研究に応募し採択され、「長久手市内における『登下校見守り活動』の実態と課題に関する調査—子どもを中心とした地域づくりの拠点として—」として大学がある長久手市内における「見守り活動」がどのように行われているのか、活動の頻度・組織の構造・活動理念などの聞き取り調査及び研究活動を始めました。そのなかには「若い世代の参加」を望む回答や、特に大学生の参加を期待する声が多くあり、子どもがより多くの大人と関わることができることや、幅広い世代の地域活動が地域の活性化につながるという考えに共感し、団体としても実際の見守り活動を開始することになりました。</p> <p>具体的には、本学長久手キャンパスの近くの小学校、長久手市立西小学校の下校見守り活動へ学生が自主的に参加してきました。毎週水曜日は小学校 1 年生のみの下校になるため、14 時 45 分から 20～30 分間ほど、地域のボランティアと協力しながら団体メンバーが数人ずつ担当して子どもたちと一緒に歩き、下校時の見守り活動を行ってきました。見守り活動終了後には小学校に集合し、簡単な報告会を行い、子どもたちの変化や接し方の違い、疑問などを共有します。また年に 1～2 回は、長久手市役所や長久手西小学校に赴き、挨拶や活動報告を行っています。</p>
<p>活動の成果</p>	<p>平成 27 年 6 月から、平成 30 年 3 月までの 2 年 10 ヶ月間に、計 114 回（週 1 回・1 時間、調査研究を含む）の活動を実施しました。</p> <p>学生が毎週子どもたちの下校に付き添うことによって、次第に信頼関係が生まれ、子どもたちは学校での出来事を話してくれるようになり、楽しく安心して下校できるようになっています。子どもたちは、安全に帰宅できるだけでなく、異世代の学生と交流する機会ともなり、多様な刺激を受けて成長していることが窺われ、学校の先生方や保護者の方々からも声をかけられ、感謝されています。</p> <p>またメンバーの学生たちにとっても、地域の人々との関わりができ、日常的に、子どもや地域に対する自分たちの及ぼす影響を考えながら行動するようになっていきます。</p>
<p>平成 30 年 春季善行表彰式</p>	<p>日 時 平成 30 年 5 月 19 日（土）13:30～15:30 場 所 明治神宮参集殿</p>  <p>(写真左から現大学院人間発達学研究科博士前期課程 1 年・神田 篤志、神山 柊太郎、教育福祉学部教育発達学科 3 年・大橋健太郎)</p>
<p>担当教員 (推薦者)</p>	<p>教育福祉学部教育発達学科教授・山本理絵（教育福祉学部長）</p>